

1994年度日本気象学会春季大会シンポジウム

「酸性雨—地球環境問題として—」の報告*

はじめに

土器屋 由紀子*1・中 村 一*2

「酸性雨」は決して新しい問題ではない。しかし、従来は、大気汚染などに関わる一部の専門家の問題であったのが、最近になって、「地球環境問題」として見直され、社会的な関心が高まっているといえよう。気象学会のシンポジウムのテーマとして取り上げられるのは、今回が初めてのことであるが、気象研究ノート182号「酸性雨 II」が1994年3月に158号酸性雨(1987)の好評をうけて、改訂発行されたことによっても、気象学研究者の間でも関心の高まりがうかがわれる。

今回の企画に当たっては、最近の酸性雨研究の中心をになっている若手研究者を中心に3つのテーマに絞って講演をお願いした。総司会を電力中央研究所の藤田慎一氏に、「酸性雨」とは何かという基本的な問題について国立公衆衛生院の原宏氏に、酸性霧と森林

衰退について神奈川大学の井川学氏に、輸送モデルについて気象研究所の佐藤純次氏をお願いした。

気象学とは若干専門を異にする分野の方々の参加もお願いし、なるべく活発な議論によって理解を深めるように、分かりやすいお話をお願いしたところ、午後1時からという時間帯にも関わらず、多くの参加者を得て、活発な討論が行われたことは事務局として慶びに耐えない。これを機に、今後この分野の研究・議論の深化が望まれる。

なお、シンポジウムの運営に当たっては、気象庁観測部の多大な援助をいただいた。また、本稿のとりまとめに当たり、気象大学校学生多数によるテープおこしなどの協力を得た。ここに感謝申し上げる。

201:402 (酸性雨; 地球環境問題)

1. 酸性雨—地球環境問題として—**

藤 田 慎 一*3

環境問題を取りまく内外の情勢は、過去20年の間に大きく変貌したといわれる。地球の温暖化、オゾン層の破壊、緑地の砂漠化、環境の酸性化といった広域規模の現象が目に触れるようになり、環境と開発の両立が国際的な場で議論されるようになった現代の環境

問題は、確かに従来のそれとは一線を画するかもしれない。

こうした広域規模の環境問題のなかで、環境の酸性化(酸性雨)は、比較的是やくから調査や研究が進められてきた課題に属する。国境を越えた環境問題として、酸性雨が提起された最初のきっかけは、1972年にストックホルムで開催された国連の人間環境会議であ

* Report of Symposium on "Acid Rain: As a Global Environmental Issue" held in 1994 spring assembly of the Meteorological Society of Japan.

*1 Yukiko Dokiya, 気象大学校.

*2 Hajime Nakamura, 気象大学校.

© 1995 日本気象学会

** Acid Rain: As a Global Environmental Issue.

*3 Shin-ichi Fujita, (財)電力中央研究所.

© 1995 日本気象学会